Naoの国民民主ノート　No.　００２　　*２０２６．０９．２０*

広島４区　鍋島　勢理　党員 / 奈良１区（奈良県議会候補）杉本あおい　党員
奈良県生駒市在住　　坂口　直明

折角なので、今回も毎週金曜FM東広島「せりの国会ノート」で扱ってられるテーマに、リンクしてみたいと思います。

今回は「地域共生社会について：相談できる窓口等々」

ご多忙とは思いますが、お時間のあるときに一部でも読んで頂ければ幸いです。　　また「これは使える」と思って頂けた書き込みは、一部でも自由に引用、活用頂ければ助かります。

１．　地域共生社会を維持するための相談窓口

今回「国会ノート」では、学力低下した子供の背景について、相談できる窓口など含めて例題としてとりあげられました。「ヤングケアラーかも？」「シングルマザー環境で、勉強時間がさけない」様々な根本原因を的確につきとめて対処するのは、確かに容易なことではありません。

介護福祉士、民生児童委員、自治体の専門部局のスタッフさんたちなど、各専門職の方々が連携して、課題解決を探る必要性はみな認識しています。でも当の困っている中に置かれた当事者の方は、まず「どこに」「誰に」相談すべきかわからないのが現状です。

例えば、高齢者介護や一人暮らしの方の相談対応ケアなどは、近々自治体によって「地域包括相談センター」というような名称の窓口が設けられて、まずはそこに相談すれば、適切な専門家や業者、施設につなぐ仕組みができつつあります。

要は、いきなり大きな医療機関や大学附属病院を受診するのではなく、身近な日々受診している、いわゆる「ハウスドクター」に相談し、必要な専門医や規模の大きい医療機関で受診するといったアプローチと同じと認識しています。

そんなとき重要になってくるのが、当事者相談者の「カルテ」情報です。個人のプライバシーに十分に配慮しつつ、その人の課題の中核部分にたどりつけるような必要情報を、漏れなく網羅していないといけません。

この相談窓口の先にある「カルテ」　これを「どう管理し」「いかにして相談者の課題や悩みを解消するか」に活用していかなければなりません。

２．Nao の「カルテ重要論」

「カルテ」と聞くと、皆さんまず医者や薬局、医療関係の個人情報を思い浮かべます。もちろん一番わかりやすいのがそれですが、人生あらゆるところで「個人情報の記録」としてのカルテ非常に重要だと感じています。

せりさんの御実家は、長年続いてきた地域密着の「美容室」。特に紙や電子データとして残っていなくても、常連さんの個人データは何らかの形で残されてきたかと思います。もしかしたら、それは過日私がせりさんにお持ちした「岡山の桃」を一緒に食べて頂いたおばあ様以前の代から、脈々と受け継がれてきているかもしれません。

私が今地元で通っている美容室（７０近い年金生活者男子が何故？）は、約２０年前もともと理容室いわゆる床屋さんでした。結構理容室美容室が多い地元で、何故そこに通うようになったかは、「カルテ」がポイントでした。

店舗の名前が、大阪府下の実家最寄りの「奥田理容」と同じだったので、ふと入店してみると。病院のようなカルテが存在していました。住所氏名などの基本情報に加えて、「紙の質」「整髪料などの常時利用しているもの」「パーマで使う１液と２液のパターンと目安の時間」などなどが、ぎっしり詰まっていました。これなら、大量生産の工場ラインのように処理されることなく、自分カスタマイズの対応が頂けるのではと直感しました。

そして数年。営業形態は美容室になってチェーン店も増えました。でも当時から車好きで楽しいトークも楽しめる店として、月１回のささやかなぜいたくをさせて頂いています。

「カルテ」を含む個人のデータ、今後ますます重要になってくると実感しています。そして、ひとりひとりに正しく向き合って、そのパフォーマンスを最大限に引き出す、その重要性がますます感じられるのではないでしょうか？

本人が「学びたいのに学べない原因がある」にならないよう、そんな子供さんたちの未来に何か貢献できる、そんな年金じいさん(笑)目指したいですね。